

新しい家庭文化を定着させ、天一国創建の主人となろう！

韓国・清平で「2016年度日本牧会者研修会」

韓国の清心国際青少年修練院で5月5～7日にかけて「2016年度日本牧会者研修会」が開催され、日本全国の牧会者ら約370人が参加しました。

5日夕の開講式は李成萬本部長の司会で進行。天一国の歌の斉唱、田中富広副会長の報告祈祷、徳野英治会長の開会の辞に続いて、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が「天一国定着に向かう私たちの姿勢」と題して講話を行いました。

宋総会長は、「今回公職者たちが集まったのは、昨年聖和3周年を通じて日本が家庭連合時代を出発して以後、私たちが向かっている方向性に対する点検をし、VISION2020勝利を必ず成すための疎通と共有の場とするためです」と研修会の意義を説明。「家庭連合時代は、これまでの統一教会信仰の枠を取り外し、新時代、新しい文化として歩んで行く必要があります。この道は蕩滅の道ではないので、誰かが代わることはできません。真の父母様と完全に一つになって私たちが直接歩んで行かなければならない道なのです」と強調しました。

その上で、「私たちが正しい家庭文化を定着させ、その生活の基準である家庭盟誓と訓読会、安侍日を守る生活指針を実践すれば、真の意味での救国運動となり、日本が抱える諸問題を解決できるようになるでしょう」と説き、「ここに集まった日本の公職者は、実体的な天一国創建を成していく創造的発展の主体にならなければなりません」と訴えました。

翌6日からは、「実質的教会成長と二世圏の復興に向けて」をテーマに、各局の局長らがそれぞれの局の方針を発表。その中で、伝道教育局は矢野治佳局長が「地域・家庭集会定着と教育システム構築による神氏族メシヤ勝利！」をスローガンとしていくこと、家庭教育局は阿部美樹局長が「三代圏家庭確立を通じた祝福家庭の幸福実現」を教育指針としていくことを表明しました。

それぞれの局長の発表の後は、小グループに分かれ、「伝道」「家庭」「復興」「青年」の成長と発展に向けた討議が行われました。

同日午後には、真のお母様をお迎えして特別集会が行われました。お母様が会場に入場され、参加者が敬礼を捧げると、お母様は「一緒に『オンマーヤ・



ヌーナヤ』を歌いましょう」と言われ、全員で合唱。続いてお母様は「皆さんは日本の中心指導者ですか？」と語りかけてから、「皆さんに歴史を話そうと思います」と述べ、6000年の神様の救援摂理歴史について解説されました。

その上で「世界に73億もの人類がいます。私た

ちが1日も早く、未来の天一国・地上天国はこのような姿だと知らせ、『あなたたちもここに来るんだ』と示してあげられる舞台をつくらなければなりません」と語り、参加者を激励されました。(真のお母様のみ言は4面に掲載)

その後、清平の神氏族メシヤ修練会に参加してい

た約100人の在日韓国人婦人が、真のお母様の愛唱歌「愛を探して、人生を探して」を歌い、日本の牧会者らが踊りを交えながら「愛の花」「無条件」を披露。会場は大いに盛り上がりました。

(3面に続く)

真のお母様のみ言

“すべての願いを私が生きている間に成して差し上げたい”

7日午前には徳野会長の講話があり、家庭連合時代の「牧会者の役割」について、「信徒が理想家庭の形成・神氏族メシヤの活動をするのをサポートし、自ら地域・社会に貢献する」ことを挙げました。また、「牧会者の姿勢」については、祈祷と精誠を捧げながら、「理想家庭」「神氏族メシヤの使命」「為に生きる生活」「公私の区別と透明性」——において模範となるべきだと語りました。

7日午後に行われた閉講式では、李海玉^{イヘオク}総会長夫人が講話し、「愛あふれる教会づくりのためには、まず牧会者が幸せでなければなりません。そのために牧会者は、己の使命に対し、疲れも飽きもせず胸躍らせる感動が不可欠です」と激励。会長、総会長の総括のメッセージを受けて、参加者全員が新たな決意で出発しました。



①花束を受けられる真のお母様 ②参加者たちが歌とダンスで会場を盛り上げた
③徳野英治会長 ④田中富広副会長 ⑤李成萬本部長
⑥お母様に拍手を送る在日韓国人婦人 ⑦お母様のみ言に耳を傾ける牧会者

以下のみ言は5月6日、韓国・清平の清心国際青少年修練院で行われた2016年度「日本牧会者研修会」において、真のお母様が語られた内容を日本語に翻訳し、一部を抜粋したものです。

これから私が本格的にこの清平の環境をつくっていきます。真のお父様、真の父母様が計画された夢があります。それは未来に訪ねて来るであろう天一国の民のためなのです。現在皆さんたちは真の父母様と共に生涯を生きています。肉身には限界があります。私がいつ逝くのかは天だけがご存知なのです。しかし皆さんの願いが私の願いだとすれば、すべての願いを私が生きている間に成して差し上げたいのです。分かりますか？（「はい」）

天の父母様と真の父母様を中心とした一つの世界、天の願う世界はこのような姿であるということを見せてあげたいのです。分かりますか？（「はい」）み言も重要ですが、視覚的効果もとても大きいのです。

そのように考えてみると天地鮮鶴苑、真の父母様の全生涯の業績を顕し、これから天一国の民がどのように生きていけばいいのかを見せてあげ、真の父母様の前に近く行くことができるようにしてあげるのです。そのような面から見ても、大母様の役割が非常に重要であるという話なのです。

霊界において皆さん故に解怨成就された善の霊人たちが、真の父母様の前に行くための門となる方が大母様です。そのことを知らなければなりません。分かりますか？（「はい」）

ですから、大母様の生涯を皆さんは学ぶべきです。一生涯を私的な心を持たないで生きた方です。天の啓示により私は天の娘として生まれたので、大母様は天の乳母の立場にありました。そのような面ですることがありませんでした。それで神様が記憶された方だったのです。真の父母様の前に誰も成すことができなかったことを成就することができた方なのです。わかりましたか？（「はい！」拍手）

そうなら、地上にいる皆さんが責任を果たさなければなりません。私と共に最後をうまく締めくくらなければならないのです。最後の仕上げ、最後の整理を上手にしなければなりません。分かりますか？（「はい」）

そして、私と一緒に素敵な夢を実現しますか、しませんか？（「実現します！」拍手）



「父母の日」を記念する朝食会でケーキカットされる真のお母様と文善進世界会長（5月8日、天正宮博物館）

真の父母様の理想が世界最高でなければなりません。2番であっては天の父母様が悲しまれるでしょう？ 最高！ですから、天地鮮鶴苑本殿は全世界の人々が見たことのない、清平でしか見ることのできない聖殿としてつくりたいのです。（拍手）

聖和3周年までは、私はとてもやるべきことが多かったので、天地鮮鶴苑に本格的に投入することはできませんでした。しかし、これからは拍車をかけていきます。それで皆さんの夢、世の中に誇ることのできる立派なものをつくりたいと思っていますが、協助してくれますか？（「はい！」拍手）

私の心は、寝て覚めれば新しい朝、新しい1日が来て、新しい姿で、新しい環境をつくりたいという気持ちで溢れていることを皆さんに伝えたいのです。（「はい！」拍手）

皆さんがどのような心で私と一緒に同参してくれるでしょうか？ 何事にも感謝する生活をしていかなければなりません。

6000年ぶりに天が初めて探し出した独り娘が現れて来なければ、真の父母は存在しませんでした。このようなときに皆さんが共に生きていることはラッキーでしょう？（「はい」）

ところで今、世界に73億もの人類がいます。ですから、私たちが1日も早く、未来の天一国・地上天国はこのような姿だと知らせ、「だからあなたたちもここに来るんだ」と示してあげられる舞台をつくらなければなりませんね。（「はい」拍手）

その責任を果たすべき中心国家が韓国と、エバ国家日本であるという誇りを持たなければなりません。（「はい！」拍手）
それでは、私は皆さんを信じますからね！（「はい！」拍手）

UPeace が本格的な支援活動をスタート

連休中には 110 人余りが参加—熊本地震



①引っ越し作業後に被災者と ②研修会で災害ボランティアについて説明する加藤善斐徒（よしひと） UPeace キャプテン ③④引っ越しを手伝う UPeace メンバー ⑤支援物資の整理を行う UPeace メンバー

ゴールデンウィーク期間中の 4 月 30 日～5 月 8 日、世界平和統一家庭連合平和ボランティア隊「UPeace」が熊本県内の地震被災地で支援活動を行い、110 人以上が参加しました。遠くは東京や茨城、愛知等から支援に駆け付けたメンバーもいました。

熊本での支援活動は、阿蘇家庭教会（熊本市東区）を拠点に実施。“通い”で参加したメンバー以外は、男性は駐車場にテントを張って寝袋で休み、女性は礼拝堂で宿泊しながら、熊本市や益城町、南阿蘇村などの 70 カ所以上の現場で、家財道具の整理や引越しの手伝い、がれきの撤去などを行いました。

一方、熊本での支援活動と並行し、東日本大震災の被災地でのボランティア活動も継続。第 125 陣（4 月 29 日～5 月 2 日、14 人）と第 126 陣（5 月 2～5 日、14 人）が、それぞれ宮城・石巻で農家の支援や集会所

の花壇整備、民宿の手伝いなどを行いました。

UPeace は、今後も被災地でのニーズに合わせて、様々な復興支援活動を展開していく計画です。

* * *

家庭連合では義援金を受け付けています。多くの皆様のご関心とご支援をお願いします。

【熊本地震被害に対する義援金募集中】

送金口座 ゆうちょ銀行
 記号：10140 番号：76685481
 名義：宗教学世界平和統一家庭連合
 ※ゆうちょ銀行以外の銀行から振込みの場合は、以下ようになります。
 店名：〇一八（ゼロイチハチ）（普）7668548

「第 1 回先輩家庭懇親会」を開催

文妍娥様がお母様のメッセージを伝達



①文妍娥様を中心に全体で記念撮影
 ②メッセージを語られる文妍娥様
 ③懇親会に参加した先輩家庭

4 月 29 日、東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で「第 1 回先輩家庭懇親会」が行われ、43 双、777 双、1800 双を代表して 74 人が参加しました。

開会に先立ち、熊本地震の被災者のために全体で黙祷を捧げました。

平井利明総務局長の司会で進められた懇親会は、天一国の歌斉唱と家庭盟誓の唱和に続き、佐野邦雄特別巡回師が代表報告祈禱を行いました。

開会の挨拶に立った李成萬本部長は「先輩家庭は真の父母様に直接侍った証人です。後孫のために使徒行伝ならぬ『子女行伝』（自叙伝）を残して下さるようお願いいたします」と語りました。

徳野英治会長は祝辞の中で、真のお母様が熊本地震の被害に遭った教会員を心配されながら、「どんなことがあっても天を恨んではいけない」と激励されたこと、また先輩家庭に会われると必ず年齢を聞かれ、「よく生きて、よく死になさい」と語られるエピソードなどを紹介

しました。

4 月 22 日の「天地人真の父母様御聖婚 56 周年記念式」に参加した 4 人の証しに続いて、会食の時間が持たれ、入澤希音さんの美しい歌と東京カーブのダイナミックなダンスが披露され、会場を盛り上げました。

引き続き、文妍娥様（世界平和女性連合会長）をお迎えして特別講話がありました。妍娥様は前日の夜、真のお母様から先輩家庭のために「御聖婚記念式で下賜された 4 つの聖物の意味と祝禱の内容を心に刻むように」というメッセージを頂いたことや、前進し続けるお母様の力の源として「最も難しい時には、お父様との最もうれしかったことを思い出して越えていくんですよ」と語っておられることを証しされました。

懇親会は、豪華賞品が準備された抽選会の後、柴沼邦彦特別巡回師のリードで億万歳四唱を行い、閉会しました。

“聖和の瞬間まで一人でも多くの人を伝道しなさい”

大阪の神氏族メシヤ修練会に 652 人が参加



- ① 神氏族メシヤ修練会の参加者
- ② 徳野英治会長
- ③ 矢野治佳伝道教育局長
- ④ 朱鎮台第9地区長
- ⑤ 過去最大規模の修練生が参加

4月29、30日の2日間、大阪市内の会場で第9地区(大阪、和歌山)、第15地区(京都、奈良、三重、滋賀)、第16地区(兵庫、岡山、鳥取)の祝福家庭652人が集い、「第20回神氏族メシヤ修練会」が開催されました。これまで韓国・清平や千葉・浦安で行なわれてきた神氏族メシヤ修練会に諸事情で参加できなかった男性食口や勤労婦人などが多数参加しました。

開講式では、朱鎮台第9地区長の挨拶の後、矢野治佳伝道教育局長が神氏族メシヤに関するメッセージを語りました。

修練会では、まず篠崎幸郎本部伝道部長が2講座を担当し、時にユーモアを交えながら聴衆の心に響く講義を行いました。続いて、同じく2講座を担当した多田聡夫本部家庭教育部長が、家庭教育の観点から夫婦、親子のあり方をわかりやすく解説。参加者にとって多くを悟り悔い改める時間となりました。

2日目は、佐々木一成本部教育部長が、神氏族メシヤの使命について光を当てた講義を行い、修練生全体が復

興。最後は山中智博講師が、神氏族メシヤに関する今後の展開について分かりやすく説明しました。

参加者にとって大きな恩恵となったのが、徳野英治会長のメッセージでした。徳野会長は、真の父母様の御聖婚56周年記念式前後の真のお母様のご様子に触れながら、「よく生きて、よく死になさい」「聖和の瞬間まで一人でも多くの人を伝道しなさい」などのお母様のみ言を紹介。また、すべてを犠牲にされながら人類の救いの為に歩いてこられた真の父母様の路程を涙ながらに証しました。

閉講式では、修練生全員が右手を挙げて「神氏族メシヤ宣誓書」を高らかに読み上げ、天の前に神氏族メシヤの使命を果たす決意を表明。続いて、参加者を代表して朱鎮台地区長ご夫妻をはじめ、各教区の代表家庭に修了証と誓約書が授与されました。

最後に全体で億万歳四唱を行い、2日間にわたる恵み深い修練会が幕を閉じました。

南東京で「ファミリーフェスティバル」

祝福伝道の入口として好評



- ① 講話を行う杉田善忠孝成家庭教会会長
- ② 親子で歌を披露するファミリー
- ③ 中高生によるパフォーマンス
- ④ ファミリーフェスティバルの参加者

4月30日、南東京教区の「ファミリーフェスティバル2016」が東京都大田区内の会場で開催され、来賓のほか、新規・再復帰のゲスト43人を含む総勢213人が参加しました。

南東京教区は、昨年1200双の祝福伝道を勝利し、神氏族メシヤ活動を進めました。今回で7回目となるこの「ファミリーフェスティバル」は、その祝福伝道の入口となるイベントとして、家族や親族、知人・友人を含め、幅広い世代の人々を招待することが出来ると毎回好評です。

特に「幸せな家庭を目指す頑張る家族の紹介」のコーナーは、非常に個性的で愛情タップリの国際家庭や三世代の家庭が登場。それぞれの家庭が心を一つにしてピアノやギターに合わせて合唱する姿は、観ているだけで幸

せを貰える恩恵深い時間となっています。

また今回は、杉田善忠孝成家庭教会会長が「幸せになるための心の仕組み」をテーマに約40分間にわたって講話。「自分が正しいという強い思いが、何かを否定し、誰かを否定します。そうすると、いらぬ不安や恐れが自分を責めるようになります」と語りました。参加者は、講演内容に強く共感し、最後まで関心をもって耳を傾けていました。

最後は、恒例の抽選会で盛り上がり、すべてのプログラムを終えました。

南東京教区は、こうしたイベントを一過性のものとせず、9月に行う教区主催の祝福式に連結させ、さらに真の父母様の願いである神氏族メシヤ勝利に向けて前進していく方針です。

「アジアと日本の平和と安全を守る福井県大会」開催

安全保障関連法の意義を訴える



①講演する太田洪量世界平和連合会長
②拍手を送る参加者
③連休中に福井駅で行った街頭演説
④街頭演説を行う青年メンバー

5月8日、福井県坂井市内の会場で、「アジアと日本の平和と安全を守る福井県大会」（主催・世界平和連合福井県連合会）が開催され、県下各地から約260人が参加しました。

大会は、安全保障関連法が3月29日に施行されたのに伴い、同法は「戦争法」としてレッテルをはる廃止運動が起きるなか、県民に同法への理解を深めるために企画。会員有志が福井駅周辺で活発な街頭演説やチラシ配布を行いながら、大会に備えました。

大会では、太田^{ひろかず}洪量世界平和連合会長が「内外の共産主義との戦いに対峙しよう」と題して基調講演を行いま

した。

その中で太田会長は、「中国は、国も地方政府も企業も経済的に破綻する懸念が強まっており、それを打開するため太平洋に海洋進出しています。そんな中、安全保障関連法が制定されたのは極めて効果的です」と語り、同法の必要性を強調しました。

続いて、共産主義との戦いを呼び掛ける大会決議が読み上げられ、満場の拍手で採択されました。

大会の様子は地元紙でも報道され、安全保障関連法制定の意義を県下に周知するのに一役買いました。

“人々に幸福をもたらす者となろう”

大阪でファミリー書写大会



①講話する浅川勇男先生（5月8日、守口市内のホール）
②カーネーションを贈られる“お母さん”たち（同）
③オープニングで歌を披露した天芸団（5月9日、大阪家庭教会）
④書写実践を行う参加者（同）

5月8、9日の両日、大阪で相次いで書写大会が行われ、真のお父様の自叙伝書写を通じた恩恵を分かち合い、参加者は心から復興しました。

8日に大阪府守口市内のホールで行われた北大阪教区主催の「北大阪ファミリー書写会」には、新規・再復帰のゲスト52人を含む約530人が参加。最初に天父報恩歌や新北撰壮年部の歌、天芸団の舞踊のエンターテインメントで大いに盛り上がった後、あるメンバーが「家族の一生懸命の書写で息子の癌が治った」という貴重な証しを行いました。

主催者と来賓の挨拶に続いて、浅川勇男先生が「人々に幸福をもたらす者となろう」という自叙伝のみ言をテーマに講話を行いました。

浅川先生は、事故で手足の自由を失い、恨みと絶望の淵にあった男性が、イエス様のみ言を通して改心し、必死に努力をして口で絵を描き、画家となって人々に喜びを与えるようになった星野富弘氏の実話を紹介しながら、「私たちが人々に幸福を与えられる人にならなう」と呼び掛けました。講演の後は、参加者一人ひとりが心を込めて講演のテーマとなったみ言を書写しました。

ちょうど母の日だったこの日、壮年たちがステージから「お母さんありがとう」の歌を披露し、子供たちが会場にいるすべてのお母さんにカーネーションをプレゼントするサプライズイベントもありました。

9日に大阪家庭教会礼拝堂で行われた「大阪ファミリー書写フェスタ」（主催・南東西大阪教区）には、雨模様の中にもかかわらず、多くの新規参加者を含む約160人が集まりました。

オープニングとして韓国婦人、在日婦人、日本婦人の連合メンバーで構成された天芸団が登場し、精誠を込めて天の父母様に感謝をお捧げする2曲を披露。続いて、堺西家庭教会所属の婦人メンバーが、お父様の自叙伝書写を通してみ言を心に刻む中、驚くべき導きがあったという証しを行いました。

朱鎮台第9地区長の挨拶の後、浅川先生が「幸福は常に私たちが待っています」をテーマに心情深い講話を行い、聴衆は引き寄せられるように聞き入っていました。

その後、書写実践とみ言を心に刻む瞑想を行い、参加者は熱心に取り組んでいました。

全国の伝道の証し

40日特別精誠路程で3人の受講決定

中央北海道教区 函館家庭教会

2016年の出発とともに始まった3次にわたる「神氏族メシヤ勝利と救国救世基盤造成の為の40日特別精誠路程」で、私が「天の願いに何とか応えたい」と思い歩いていく中で導かれた3人の証しを、ご報告させていただきます。

今年の1月早々に天一国経典『真の父母経』を授かることができ、早速訓読を始めました。読めば読むほど、「こうしてはいられない!」という焦る思いが湧き出てきました。そこで伝道対象者43人の名簿で意識していた方々に声を掛けようと決意しました。

1人目は、前々からお子さんの事で相談を受けていた婦人で、信頼関係はあると思い、勇気を持って家庭連合を証したところ講演会に来て頂くことができました。

2人目は、「家が散らかっているが、片づけたくても片づけれない」という悩みがあった婦人です。私は為に生きる精神で婦人の家に掃除に行き、色々と話を聞いていくうちに、「今まで、片づける為のアドバイスをしてくれた人や、具体的に片づけてくれた人もいたけれど、私の心を見つめ、私の家庭の事を思ってくれる人はいなかった」と涙を流して感動されていました。私は「今しかない」と思い、決意して家庭連合を証したところ、2人目の講演会動員が決まったのです。

3人目は、娘の幼稚園時代にお世話になった担任の先生で、24歳の青年です。

今年3月で退職することを聞いていたので、真のお父様の自叙伝を渡しました。

しばらくして連絡をしたところ、まだ再就職しておらず、企業から面接日の連絡待ちをしている状態でした。

そこですぐに、「時間があるなら一緒に講演会に行ってみない?」と誘ったところ、「行ってみたい!」と即答され、3人目の動員が決まりました。お渡ししていた自叙伝も少しずつ読んで下さっていて、「心に響きますね」という本質的な感想に私も感動しました。

このように、40日特別精誠路程中に、3人の方に講演会に来て頂くことができました。3人とも非常に反応がよく、真剣に聴いてくださいました。そして全員快く受講決定するに至ったのです。

自分では気付かなかったのですが、婦人代表から40日特別精誠路程の条件が具体的に進められていることを聞いた時、「これは私ではなく、天の父母様が導かれている」と感じました。

また受講決定した3人を通して、「時は来ているし、天は全て準備して下さっている。後は私の5%をいかに果たすかが問題だ」と実感することができました。

真のお母様が「堂々と真の父母を証しなさい」とおっしゃったごとく、中心性を持って歩むことが重要であり、導かれるポイントであると痛感いたしました。

家庭教会を中心に神氏族メシヤ活動を推進

大分教区 大分家庭教会

私の神氏族メシヤ活動は、1991年の還故郷の摂理を受けて出発いたしました。

この年、「統一堂をつくりなさい」との真のお父様のみ言があり、いつでも皆が集まれるように家を建てました。その時から、我が家の家庭教会は出発しています。

「私自身が家庭復帰していなければ、氏族への指導も出来ない」と考え、1996年に海外宣教に出発しました。しかしそのこと故に周りから反対され、主人の親からは反対派の弁護士を通じて訴えられたこともありました。

しかし、霊の子達の精誠により家庭教会は守られました。また帰国後は、主人の兄弟に対しては嫁として、僕の僕的心情で侍りながら精誠を尽くしていきました。

今では我が家ほど仲の良い家庭はないと言われ、主人の兄や姉も私に相談してくるほど信頼されるようになりました。私自身、海外宣教に行ったことが大きな精誠条件となったと思います。

さて、我が家の信仰二世の子供達は、2、3歳頃から教会に通っていますが、祝福（結婚）への連結が難しい状況でした。

私は「子供の祝福の為には、まず三代圏復帰で親の祝福をしなければならない」と思い、双方の両親に対し、先祖と私達の関わりを説明したり、祝福などのビデオを見せたり、清平修錬苑の証しをするなど、あらゆる精誠を尽くしていく中で、お互いの両親を祝福に導くことができました。

また、なかなか夫復帰が出来ない霊の子・孫の

婦人たちの家庭に私達夫婦がケアに入り、夫復帰をして祝福を勧めていきました。それを通して、我が家の子供達も2014年、2016年と基元節祝福式に参加させて頂くことが出来ました。

そして今年、待望の祝福二世が誕生します。このことを通して、「祝福は夫婦、家族で行かなければならない道である」ことを痛感しています。

私達は週1回、皆で集まって勉強会をしながら、霊の血統の家庭の子供達、あるいは霊の子の祝福などを勧めています。

私が永遠の命に責任を持つ決意で、家庭の事情まで親身に聞き、共に悩み、共に喜び、共に歩ませて頂いています。

私達を取り巻く環境、事情について、全て神様が与えてくださっておられると感謝しています。私自身が抱えている課題もありますが、それを1日も早く整理し、残された地上生活において全ての責任を果たす決意で、真の父母様の孝行娘として前進し、一人でも多くの人々にこの喜びを伝えていきたいと思っています。

